

補説「得点率レーダーチャート」について

得点率レーダーチャートのコンピテンス別の「得点率」は次を意味する。

- 「基本的な知識・理解」の得点率は、多肢選択式問題（全 15 問；正答 1 点・誤答 0 点）について、受験者全体に占める正答者の率を指す。多肢選択式問題は、7 つの分野ごとに難易度の異なる複数の問題から構成されている（「多肢選択式設問別結果」参照）。出題する問題の組み合わせによって、期待される得点率は変動する。
- 「工学基礎・工学専門（BES）」「エンジニアリング汎用的能力（EGS）」「エンジニアリング分析・解析（EA）」「エンジニアリング・デザイン」 「エンジニアリング実践テクニカル（EPt）」 「エンジニアリング実践ノンテクニカル（EPnt）」の得点率は、それぞれのコンピテンスの測定を目指す記述式問題（BES1 問、EGS 9 問、EA4 問、ED1 問、EPt1 問、EPnt 2 問）について、コンピテンスごとの最高点（2 点×問題数）に占める受験者全員の合計点の割合として計算されている。

ただし、記述式問題の得点（レベル 2（優秀）2 点、レベル 1（合格）1 点、レベル 0（不合格・無回答）0 点）は質的な意味を持つため、単純に加算することはできない。また、コンピテンスごとに問題数の多寡があり、問題によって得点の分布も著しく異なっていることから（「記述式ループリック得点分布」参照）、得点率はあくまでも目安として解釈する必要がある。

記述式問題の得点率は、各コンピテンスの該当する全ての設問について、受験者全員がレベル 1（合格）の水準を満たしている場合、50%になる。しかしながら、上述の限界に加えて、出題範囲が極めて広範であること、解答時間に制約があること、日本の多くの学生が不慣れとする記述式の出題形式をとっていることに鑑みて、集団として 40%の得点率に達していれば、学士の水準を十分に満たしていると想定してよいと考えている。本フィードバックから教育改善への示唆を導こうとする場合、他の根拠と合わせて、複合的に判断することが望ましい。

- 「全体」は、本実施に参加した全大学・全受験者の得点率を指す。その概略は、表 1 の通りである。

表 1. ●年度大規模実施参加大学の概略

大学	学年	受験者数（全体に占める割合）			
		10%以下	11～30%	31～50%	51%～
●○大学	修士 1 年			✓	
●△大学	学部 4 年と修士 1 年		✓		
●□大学	修士 1 年	✓			
●☆大学	学部 4 年	✓			

以上